

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
海田町立海田東小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	3	3	3	3	3	3	18	5	23

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数	第5学年	2	5	10	
算数	第6学年	2	5	10	

授業時数 計 20 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 20 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	B	専科	C	A	専科	専科	A	専科	A	専科	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	B	B	B	推進	専科	専科	B	専科	B	専科	B	B	B
6年 3組 (担任: C)	C	C	C	推進	専科	専科	C	専科	C	専科	C	C	C

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: D)	E	専科	F	D	専科	専科	D	専科	D	D	D	D	D
5年 2組 (担任: E)	E	専科	E	推進	専科	専科	E	専科	E	E	E	E	E
5年 3組 (担任: F)	F	専科	F	推進	専科	専科	F	専科	F	F	F	F	F

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

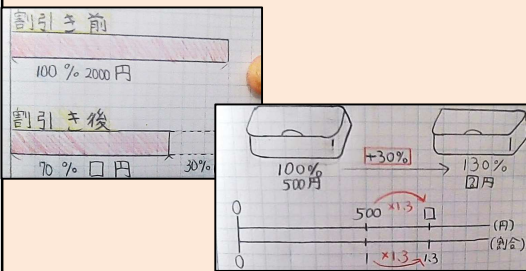
学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数	授業時数の合計
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	26	A				0	13	13
6-2	26	B	6-1	国語	4	4	16	20
6-3	26	C	6-1	社会	3	3	16	19
5-1	29	D				0	15	15
5-2	28	E	5-1	国語	4	4	16.9	20.9
5-3	27	F	5-1	社会	2.9	2.9	16.9	19.8

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

① 「問題のイラスト化」や「他者参照の方法」など授業展開の工夫や学習内容の要点の共有、理解が難しい内容の指導方法の検討
↓児童による算数の課題のイラスト化(例)



② 内容理解が難しかったり、生徒指導上の課題があったりする児童への対応の充実
↓給食前学習のリニューアルの実施(2学期以降)

給食前学習が変わる!!

- ・宿題(計)の直し
- ・授業で終わらなかった課題やテスト
- ・欠席して分からない など

担任の先生と決めてからきてください!!
図書室で待っています!

③ 第5、6学年の系統的な指導から、中学校の学習内容の紹介
↓中学校教科担任制への不安を尋ねた結果

指定校	第1回	第2回	全体
海田東小学校	43.6	56.1	49.7
海田東小学校	37.2	33.7	33.2
海田東小学校	17.0	8.2	11.4
海田東小学校	2.1	0.0	5.8
海田東小学校	0.0	0.0	5.0

④ 教材の共有による学級担任の負担軽減

⑤ 推進教員の授業の参観
↓研究主任発行の研究通信

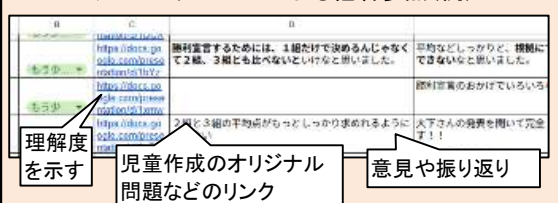
研究通信 押し活 5月30日(金) #4 研究主任

朝、内線「木本先生!ちよとやってみけんさ、時間あったら来て!」その言葉で始まった...
その一部始終をまとめてみました!個別最適な学びって?協働的な学びって?子どもの姿からイメージを強めましょう!
金曜日ちよと時間取って説明させてください!

岩倉先生 算数の授業 in 5年2組!!!
第5学年算数「直方体や立方体の体積」
単元の学習を終えての練習問題を解く時間です!

<成果>

① 授業の進捗状況と併せて、展開の工夫や要点を担当者と共有し、授業改善につながれた。
12月に実施した標準学力調査では、算数科の正答率が5年生が70.8%(全国平均+8.8%)、6年生が75.3%(全国平均+2.2%)と成果が出た。
↓スプレッドシートによる他者参照(例)




② 課題のある児童への対応について学級担任と密に連携を図ることができた。
プリント学習が中心であった給食前学習を課題の直しをやり切る場に変更したことで、児童の理解の定着や達成感につながっている。また、アンケート結果から相談できる先生が増えたことにも奏功している。

指定校	第1回	第2回	全体
海田東小学校	37.2	55.1	40.6
海田東小学校	43.6	29.6	36.2
海田東小学校	12.8	14.3	16.5
海田東小学校	6.4	1.0	6.7
海田東小学校	0.0	0.0	6.4

③ 4年生担任へ「小数のかけ算」や「計算のきまり」の単元を指導の留意点として伝えたり、児童には中学校の内容を紹介したりすることができた。
6年生の教科書「目的に合ったグラフを選ぶ問題(P.214)」を、5年生の「円グラフと帯グラフ」の算数の目(P.92)と関連させて用いることができた。
また、アンケート結果からは、肯定的な回答が増え、不安が軽減されていることが分かる。

④ 推進教員が作成した教材を共有することで、指導前には授業の展開の確認を、授業後には成果と課題を交流することができ、指導の統一を図ることができた。

⑤ 本校の研究テーマにも掲げている「個別最適な学び」の授業実践を同学年の別の担当者が参観することで、交流することができ、研究を深めることができた。



<課題>

① 指導者へのアンケートからは、授業改善、指導の充実等肯定的な回答が多かったが、一部の若手教員からは、指導する教科が偏ることから、指導できない教科が出てくる不安があるという声が上がった。

② 児童一人ひとりの配慮事項の理解と対応

③ 中学校との連携が難しい。

④ なし

<対策>

① 教科担任を務める学級の担任との連携を密にするため、必要に応じて交流会を設ける。
授業の進捗状況と併せて、児童の活動の様子や成果物の報告などをしていく必要がある。

② 児童一人ひとりの配慮事項について理解を深める機会を設ける。担任との連携を図り、対応方法を事前に確認しておくことが必要である。

③ 町内の教務主任研修等で中学校と連携する機会があるため、その際に児童、生徒の様子の交流や学習面での取り組みについて相互理解を深める。

④ 引き続き、教材の共有を行うことで、負担軽減を進めていく。